

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02546

研究課題名（和文）「探究的な学び」の比較教育社会史/幼年期におけるプロジェクト・アプローチの研究

研究課題名（英文）Social History of Comparative Education --q study of the project-approach

研究代表者

太田 素子 (Ohta, Motoko)

和光大学・現代人間学部・名誉教授

研究者番号：80299867

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：先行する2つの科研(JSPS 17H02670, 18KK0059)の中で、太田は主にスウェーデンの実践を分析し、レッジョ・インスピレーションに関する著作を編集している(太田・小玉編著2024刊行予定)。そこで得た知見をもとに、日本のプロジェクト型の実践（総合学習・総合活動）の記録を分析。テーマの設定過程、子どもの探求と大人の援助の関係、素材や探求方法、子どもの認識の記録とその理解などを検討した。2023年度に2冊の中間報告書（第1分冊147頁、第2分冊124頁）を発行した。個別の実践分析のモノグラフを積み重ねているが、今後これらを総合学習論としてまとめてゆく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

レッジョ・アプローチは子どもは受け身の被教育者ではなく、学びの主体者として大人とともに学びの計画に（子どもなりの仕方でも）参与する存在と考える。

そうしたアプローチと対比させ日本の総合的な活動の実践例を分析する方法は、日本の実践の様々な類型や技法、その特色を浮かび上がらせてくれた。取り上げたプロジェクト型の実践は、まだ時代も系譜も多様だが、大正期の労作教育につながる総合的な学習や、近代教科の前段階としての未分化学習（成城小学校）の中に、遊びと知的学びの関係を考え抜いた実践を見出した。また、和光小学校の1980年代以降の総合学習に「子どもが学びの主体者」となる実践を見出している。

研究成果の概要（英文）： Our research result shall be published in a book titled "Reggio Inspiration" (Ohta and Kodama eds., Hobun-shoin, 2024)

We analyzed many documents of project-oriented practices (comprehensive studies or activities) in Japan. We participated to publish a book "Document Compilations about the transition from early childhood education and care to primary education"(Ohta and Onishi eds., Fuji publisher 2022). The problem of "transition" is very close to project-activities.

Education in Sweden as well as in Japan, they emphasis on children's play and independent life. There are, however, differences. In Sweden, teachers make effort to develop children's intellectual activities in Projects and devote to develop children's logical thinking. In Japan, they try to develop children's play itself and intellectual aspect as a result. We found an interesting practice. They enforced play abundantly and also developed children's intellectual, logical and imaginary activities.

研究分野：教育学

キーワード：レッジョ・インスピレーション プロジェクト ドキュメンテーション 実践記録 幼小接続 総合学習

1. 研究開始当初の背景

この科学研究は、先行するプロジェクトの終結に際して構想計画された。太田素子研究代表,2017-19,「プロジェクト・アプローチの展開とその教育思想 日欧の幼児教育における革新の系譜」(科研費基盤研究(B) 17H02670)は、レジヨ・エミリア・アプローチに関わる国際的な研究者との交流や翻訳作業の開始など、この研究を軌道に乗せた。また、1年遅れて出発した浅井幸子研究代表,2018 - 2022「子どもの育ちと学びの記録による保育評価とその国際的ネットワークの展開」(国際共同研究強化(B))は中心メンバーが重なっていたが若手研究者の参加を得て、対象をカナダやオーストラリア、イギリスに広げ、ドキュメンテーションに基づく評価のオルタナティブを求めて国際的に研究を拡大した。そこで本プロジェクトは、日本のレジヨ・インスパイアード実践や、総合的な学習を、レジヨのプロジェクトオーナーと対比させながら分析するという、日本の実践史研究にシフトさせた研究の展開を計画した。また、周囲の若手に協力を求めて、レジヨ・インスピレーション研究の裾野を広げることも計画した。

2. 研究の目的

「傾聴の教育学」の子どもに関心から生成させてゆく、オープンエンドなプロジェクトの性格に即して、以下のように掲げた。

教材の解釈と構成のなかから、子どもの認識や関心の理解、教育目標、指導過程への見通し、リフレクション内容を抽出する。3年間の研究機関の間に、レジヨ、スウェーデンのドキュメンテーションの分析、奈良女子大、お茶の水女子大など、国立大学付属学校園のプロジェクト型の実践の事例研究、私立学校園の特色ある総合学習・総合活動の分析のモノグラフを複数作成する。そして、これらの事例を総合して、「新しい教材論」への見通しを拓く。

3. 研究の方法

従来「教材・教具」の研究は、手段、方法の研究とされているが、その目的 手段(教材教具)の研究過程が一方通行ではなく、逆に教材教具の研究(幼児教育では、「環境構成」)が、目標論・内容論や教育の本質観を俎上に載せるものであることが必要だと考えた。そこで、「傾聴の教育学」の実践が、子どもに関心や認識をどのように受け止め、子どもの探究を励ましながらかその認識を深めてゆくの、教材の解釈と構成のなかから、子どもの認識や関心の理解、教育目標、指導過程への見通し、リフレクション内容を抽出する。

4. 研究成果

先行する2つの科研(JSPS 17H02670, 18KK0059)の中で、太田は主にスウェーデンの実践を分析し、レジヨ・インスピレーションに関する著作を編集している(太田・小玉編著 2024 刊行予定)。そこで得た知見をもとに、日本のプロジェクト型の実践の記録を分析。テーマの設定過程、子どもの探求と大人の援助の関係、素材や探求方法、子どもの認識の記録とその理解などを検討した。

日本のプロジェクト型の実践（多くは総合学習・総合活動）の記録を分析した。幼稚園から小学校低学年のプロジェクト実践が多い。2023年度に2冊の中間報告書（第1分冊本文79頁、資料編67頁、合計147頁、第2分冊本文37頁、資料編86頁、合計124頁）を発行した。個別の実践分析のモノグラフを積み重ねているが、今後これらを総合学習論としてまとめてゆく。

プロジェクト型の実践と関係の深い「幼小接続」について『幼小接続資料集成』（不二出版）の編集に参加し、国立大学附属、成城・玉川・和光学園の幼小接続を検討（太田2022、大西2022）、実践記録を読み込んだ（太田2023a,2023b、大西2022）。また、CIE（戦後教育改革）の「幼年期教育」論について、アメリカの議論を紹介した（織田2023）。

スウェーデンも日本も、子どもの遊びや自主的な生活を重視する。大きな違いは、前者がプロジェクトという知性的な活動に教師の助力を集中し、子どもたちの生活の中から概念の形成や論理的な推理、思索を育てる援助に傾注してゆくのに対し、後者は遊びの発展と随伴的な知的発達を尊重する点にある。最終年度には日本における実践の中に、遊びを豊かに備えたまま、知的で論理的、想像力に満ちた展開を実現している実践（「もぐら」講談社の保育実践論文コンクール優秀賞受賞）と出会い、実践者と分析を交流した（太田2023c）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 太田素子	4. 巻 34
2. 論文標題 成城学園における『低学年教育』の成立とその思想 幼児期と学齢期の教育、その関係理解の手がかりとして（シンポジウム幼小連携の教育実践について考える 提案2）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本ベスタロッカー・フレイベル学会紀要『人間教育の探求』	6. 最初と最後の頁 41-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西 公恵	4. 巻 15
2. 論文標題 和光鶴川小学校における生活教育実践：「生活べんきょう」の実践構築過程に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 67-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 16
2. 論文標題 和光小学校・和光鶴川小学校の「沖縄」学習 学習記録から読み解く小学校6年生の平和学習	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 17
2. 論文標題 『幼児教育史研究の新地平』（上巻）の編集・刊行を終えて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 幼児教育史研究	6. 最初と最後の頁 32 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20658/youjikyokushi.17.0_32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 別巻
2. 論文標題 神戸大学附属明石学校園と幼小接続 第3巻解説 / 成城学園の幼小接続について 第5巻解説1 / 「玉川学園の幼小接続とチャレンジ・プログラム 第5巻解説2」、同「和光学園の幼小接続について」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『幼小接続資料集成 別冊解説』	6. 最初と最後の頁 35-52, 75-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西公恵	4. 巻 15
2. 論文標題 和光鶴川小学校における生活教育実践 『生活べんきょう』の実践構築過程に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 67-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西公恵	4. 巻 別巻
2. 論文標題 奈良女子大学附属学校園における教育・保育実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 幼小接続資料集成 別冊解説	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 織田望美	4. 巻 13
2. 論文標題 1940年代後半のアメリカ合衆国における幼児教育の位置づけ 州および地方当局に対するアンケート調査の結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 こども教育宝仙大学紀要	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 193
2. 論文標題 特別寄稿 知的一貫教育のなかの「総合教育」：成城学園の「低学年教育」について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 成城教育	6. 最初と最後の頁 68-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 14
2. 論文標題 幼児期における探求的学びの一考察--ストックホルム市立幼児学校の共同研究を手掛かりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 41-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大西公恵	4. 巻 21
2. 論文標題 大正新教育期における国語教育の模索：山路兵一の読方学習法と読書創造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語教育史研究	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 織田望美	4. 巻 11
2. 論文標題 ドキュメンテーションの多様な展開 サンフランシスコ・ベイエリアの保育施設を訪ねて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和光大学保育実習センター通信	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 第1分冊
2. 論文標題 島田正蔵の低学年教育論 成城小学校とドクロリー・メソッド	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JSPS 日本学術振興会 科学研究費助成事業 20K02546 中間報告書	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 織田望美	4. 巻 第1分冊
2. 論文標題 第二次世界大戦後のアメリカ合衆国における幼児教育構想 教育政策委員会の報告書を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JSPS 日本学術振興会 科学研究費助成事業 20K02546 中間報告書	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 第1分冊
2. 論文標題 幼児教育における<遊び>と<学び> 和光鶴川幼稚園「星1組 協同的まなびモグラ」実践を手がかりに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JSPS 日本学術振興会 科学研究費助成事業 20K02546 中間報告書	6. 最初と最後の頁 70-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 17
2. 論文標題 実践を科学する教師たちの登場 沢柳政太郎と「実験学校」成城小学校	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 47 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西公恵	4. 巻 第2分冊
2. 論文標題 幼稚園の合宿における子どもの経験	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 JSPS 日本学術振興会 科学研究費助成事業 20K02546 中間報告書	6. 最初と最後の頁 1 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田素子・浅井幸子	4. 巻 第2分冊
2. 論文標題 インタビューから探る 和光幼稚園・和光鶴川幼稚園の実践の歩み(資料)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 JSPS 日本学術振興会 科学研究費助成事業 20K02546 中間報告書	6. 最初と最後の頁 38 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 ドキュメンテーションから読みとく探求過程の研究 ラウンドテーブル「スウェーデンの幼児教育におけるレジジョ・インスピレーション提案2」
3. 学会等名 日本教育学会第81回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Asai, Kodama & Ohta
2. 発表標題 Reggio Inspiration in Japan: from the 1980s through the 2010s
3. 学会等名 EECERA 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Onishi & Ohta
2. 発表標題 An educational thought of comprehensive learning in childhood, from 1920's to 1980's in Japan
3. 学会等名 EECERA 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 私立実験学校の「低学年教育」と幼小関係研究史 成城学園・玉川学園・和光学園の場合
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 『明石プラン』の研究 戦後コア・カリキュラム運動と幼小接続
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会 福井大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 私立実験学校の「低学年教育」と幼小関係研究史 成城学園・玉川学園・和光学園の場合
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会 聖徳大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 幼小接続をめぐる3つの学校園の研究の足跡に学ぶ 『幼小接続資料集成』編集作業を通して
3. 学会等名 日本ベスタロッチャー・フレーベル学会第38回大会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 幼児教育史研究の成果と課題 『幼児教育史研究の新地平』の検討を踏まえて
3. 学会等名 幼児教育史学会(大会記念シンポジウム)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kimie Onishi & Motoko Ohta
2. 発表標題 An educational thought of comprehensive learning in childhood, from 1920's to 1980's in Japan
3. 学会等名 European Early Childhood Education Research Association ,GLASGOW 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田素子・浅井幸子
2. 発表標題 プロジェクト・アプローチの研究(1)(2)
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 幼児期における探究的学びの一考察 スウェーデンS行政区公立保育者の共同研究を手掛かりに
3. 学会等名 日本教育学会第79回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤枝充子・今村麻子・鈴木健史・伊藤妙子・戸田真
2. 発表標題 実習から始まる保育人材育成
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 明石プランの研究 戦後コア・カリキュラム運動と幼小接続
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会予定
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 実験学校の思想 沢柳政太郎と成城小学校
3. 学会等名 幼児教育史学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 太田素子 大西公恵 小玉亮子 福元真由美 浅井幸子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 118
3. 書名 幼小接続資料集成 : 別冊 解説	

1. 著者名 幼児教育史学会、太田素子、湯川嘉津美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 346
3. 書名 幼児教育史研究の新地平	

1. 著者名 太田素子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 548
3. 書名 幼小接続資料集成 第三巻 神戸大学	

1. 著者名 大西公恵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 587
3. 書名 幼小接続資料集成 第二巻 奈良女子大学	

1. 著者名 太田素子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 687
3. 書名 幼小接続資料集成 第五巻 成城学園・玉川学園・和光学園	

1. 著者名 太田素子、藤枝充子ほか著、太田素子・湯川嘉津美編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 萌文書院	5. 総ページ数 380
3. 書名 『幼児教育史研究の新地平』上巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤枝 充子 (Fujieda Mituko) (00460121)	明星大学・教育学部・教授 (32685)	
研究分担者	大西 公恵 (Onishi Kimie) (70708601)	和光大学・現代人間学部・准教授 (32688)	
研究分担者	織田 望美 (Oda Nozomi) (00848955)	こども教育宝仙大学・こども教育学部・講師 (32820)	削除 2022年6月16日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------